

第5学年2組 家庭科学習指導案

【日時】令和6年7月23日(火) 9:20 ~10:05 【場所】家庭科室 【指導者】川浪 貴保

本授業の参観の視点

児童が作りたい小物にどのような工夫をすれば生活を豊かにできるかを考えることを通して課題を設定し、他者と協働しながら課題解決を目指す姿をご覧ください。

1 題材名 ソーイング はじめの一步

2 題材の構想

(1) 題材について

本題材である「ソーイング はじめの一步」で扱う「手縫い」は、裁縫における入門の基礎となる題材である。用具の安全な取り扱い方や下準備として針に糸を通す、糸が抜けないようにするための玉結びや玉どめの方法、なみ縫い等の基礎的な知識及び基本的な技能を身に付ける題材である。また、学習の最後には身に付けた技能を用いて小物作りに取り組む。小物作りを通して「手縫い」の楽しさを感じ、身近な布製品に関心をもち、意欲的に学習に取り組むことができる題材である。また、自分で計画を立て課題を明らかにして製作することにより、自らの生活を豊かにしようとする態度を育成していく。

本題材の学習は、5年時のミシンでの布製品の製作や第6学年の目的に合った布製品の製作、中学校の生活を豊かにするための布を用いた製作等の学習につながっていく。

(2) 児童について

本学級の児童は、35人中、裁縫(手縫い)の経験がない児童が19人(54%)、家族の人が裁縫をしている場面を見たことがある児童は31人(88%)であった。また、裁縫を学ぶことでできるようになりたいことがあると答えた児童は22人(62%)であった。この実態から、裁縫に触れている児童が一定数いるとともに、裁縫に関心がある児童が多いとは言えない。さらに、実際の裁縫の経験も少ないことがうかがえる。このことから、まずは自分事として捉えられるような課題の設定を行うことが必要である。その中で、裁縫の楽しさを感じられる工夫を行い、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。身に付けた裁縫に必要な知識及び技能を生かし、製作過程で出てくる様々な課題を協働して解決していくことにより、自ら生活を豊かにしようとする実践的な態度の育成につなげていきたい。

(3) 指導について

本題材では、児童が自分事として捉えることができるように、児童の思いから目標を設定し、それを達成するための課題を一人一人が設定できるようにする。そのために、試し活動を行い、現在の自分と目標のずれを意識できるようにする。そして目標と現状のずれを埋めるための課題をもてるようにしていく。題材を通して、図1のようなサイクルを設定することで、児童が自分事として課題を設定できるようになると考える。また、全体のゴールとなる目標と今の自分の現状を把握し、課題を設定しやすくするために「学習の足跡」や「製作計画書」を作成する。

第一次では、布製品や裁縫と出会い、児童の思いを高める。身近な布製品を探したり、布製品の良さを考えたりすることで、児童の意欲を高める。さらに、布を使って試し活動を行うことで、第二次課題設定につなげる。

第二次では、生活を豊かにする小物作りのために必要な知識及び技能について理解し習得できるようにする。そのために、第一次の試し活動で出てきた、裁縫に関する知識や技能を身に付けたいという児童の思いを共有し、解決すべき学級の問題として設定する。その上で、「用具の名称や安全な取り扱い方、玉結びや玉どめ、ボタンのつけ方、基本的な縫い方」を学級の課題として設定し、練習を行う。解決方法を調べたり、試したりしながら課題解決を行うことができるようにするために、縫い方見本や縫う位置や場所が示された

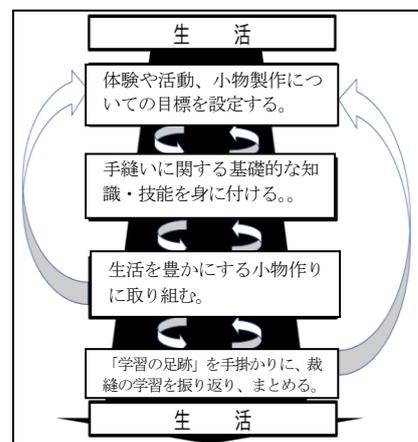


図1 児童が自分事として課題を探究するサイクル

練習布を用いて各自で課題の解決方法を調べられるようにする。

第三次では、自分や家族の生活を豊かにするための小物作りに取り組む。「自分や家族の生活を豊かにする小物を作ろう」という学級の目標を設定し、児童が作りたい小物を絵や言葉を使ってイメージ図として表せるようにする。そのイメージ図をもとに、これまでに習得した知識や技能を用いて試しに作品を製作する。その後、イメージ図と現在の自分の技術などのずれを整理する「製作計画書」を作る。そうすることで、一人一人の課題が可視化され、自分が作りたい小物に近付けるにはどうしたらよいかを考えることができるようにする。活動を行う中で、この課題は児童の思いや試行錯誤によって変容・更新をしていく。それを教師が価値付けることで児童が自ら実践を評価・改善し、課題を解決する力が身に付くと考える。

第四次では、題材全体を通しての振り返りを行う。振り返りを行う際には、「学習の足跡」を用いることで、単元全体を通して得られた知識や技能を確認したり、これからの学習に生かしていきたいことなどを確認したりして、学習したことの意義や成長等を実感できるようにする。

(4) 期待する「回遊する学び」について

本題材及び本時における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付けたものが、表1である。

表1 期待する「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力、児童の姿

	内容	資質・能力	児童の姿
ステージA 「題材・領域」	題材 「ソーイング はじめの一步」 領域 「衣生活」	・縫い方が分かり、目的に応じた縫い方を選ぶことができる。【知識及び技能】 ・製作する物の目的に応じて製作計画を立てることができる。【思考力、判断力、表現力等】	・縫い方を選んだり端の始末を適切にしたりすることができている。 ・学習したことを生かして、課題を考え、それを解決するための計画を立てている。
ステージB 「同教科」	題材 「生活を支える 物やお金」 領域 「消費生活・環境」	・身近な物の選び方や買い方を理解し、目的に合った品質のよい物を購入・選択することができる。【知識及び技能】	・手触りや丈夫さなど、自分が作りたい小物の目的に応じた材料の選択をしている。
ステージC 「他教科」	図画工作科 「ふしぎなあめ玉」	・造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品から、自分の見方や感じ方を深めたりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】	・布の手触りや性質から布を選んだり、布製品の形を考えたりしている。 ・身の回りの布製品や級友が作った布製品を見て、自分の製作への生かし方を考えている。
ステージD 「実生活・実社会」	身近な布製品	・肌触りや丈夫さなどの身近な布製品の良さに気付いている。【知識及び技能】	・自分や家族の生活に必要な物を想起して、製作に生かしている。

他者との発想の回遊では、それぞれの課題に向かって学習していく中で、協働する場を設定する。同じような課題をもつ児童同士での学び合いはもちろんのこと、自分とは異なる課題をもつ児童の考えを参考にすることで、自らの課題が変容・更新していくと考える。

3 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

手縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解し、小物の製作について課題の解決方法を考え、取り組んだ結果を評価・改善していくことで、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫し、実践しようとする態度を養うことができるようにする。

(2) 評価規準

ア 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画や手縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切に縫ったり、使用したりしている。【知識・技能】

イ 生活を豊かにするための小物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、取り組んだ結果を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決している。

【思考・判断・表現】

ウ 家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための小物の製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元の指導計画（全10時間 本時8/10時間目）

次時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】	回遊
一 1	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りにはどのような布製品があるかを実際に探したり、考えたりする。 ○題材を通してのゴールとなる目標を設定する。 ○2枚の布を縫い合わせる試し活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにはたくさんの布製品があることを知り、題材の最後に小物作りを行うことを伝えることで、児童の意欲を高めることができるようにする。 ・児童が現在の自分の現状と目標とのずれを把握できるように、実際に裁縫を体験する試し活動の場を設ける。 ・自分の現状を把握し、課題を設定することができるように、「学習の足跡」を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆生活を豊かにするための布を用いた制作について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。【主】 	D 他者
二 2	<ul style="list-style-type: none"> ○前時で共有した児童の思いをもとに、学級としての課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級全体で裁縫に関する課題を共有することで、知識や技能の習得に向かいたいという思いをもつことができるようにする。 ・なぜそうなるのか、うまくできたのかを児童の言葉で記入するようにすることで、考えを整理し、振り返ることができるようにする。 ・学習を行う中で、気付いたことや新たに生まれた児童の思いを整理する場を設けたり、全体で共有して価値付けをしたりする。 ・拡大模型や動画を用いて、糸の始末、ボタンつけ、基本の縫い方を身に付けることができるようにする。 ・縫い方の特徴を伝え、縫う部分や目的に応じて適した縫い方があることを理解できるようにする。 ・「学習の足跡」を用いることで、児童が習得した知識や技能を振り返ることができるとともに、小物製作に向けての見通しをもつことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆裁縫に必要な知識や技能について問題を見いだして課題を設定している。【思・判・表】 	A 他者
二 3 4	<ul style="list-style-type: none"> ○裁縫用具の名前や用途、安全な取り扱い方について知る。 ○玉結び、玉どめの意味を知り、ボタン付けの特徴を知り、練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・裁縫用具の名称や安全な取り扱い方を児童の言葉で記入するようにすることで、考えを整理し、振り返ることができるようにする。 ・学習を行う中で、気付いたことや新たに生まれた児童の思いを整理する場を設けたり、全体で共有して価値付けをしたりする。 ・拡大模型や動画を用いて、糸の始末、ボタンつけ、基本の縫い方を身に付けることができるようにする。 ・縫い方の特徴を伝え、縫う部分や目的に応じて適した縫い方があることを理解できるようにする。 ・「学習の足跡」を用いることで、児童が習得した知識や技能を振り返ることができるとともに、小物製作に向けての見通しをもつことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆裁縫用具の名称及び安全な取り扱い方を理解している。【知・技】 ◆玉結び・玉どめの特徴や仕方を理解し、適切にできる。【知・技】 ◆ボタン付けの仕方を学び、布にボタンを縫い付けることができる。【知・技】 	A 他者
二 5 6	<ul style="list-style-type: none"> ○手縫いの基本的な縫い方を学び、練習する。 ○第二次の学習を振り返り、自分ができるようになったことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手縫いの基本的な縫い方を身に付けることができるようにする。 ・縫い方の特徴を伝え、縫う部分や目的に応じて適した縫い方があることを理解できるようにする。 ・「学習の足跡」を用いることで、児童が習得した知識や技能を振り返ることができるとともに、小物製作に向けての見通しをもつことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆手縫いの基本的な縫い方の特徴や違いを知り、それぞれの縫い方を理解し適切に縫うことができる。【知・技】 ◆目的や用途に応じて適切な縫い方を選択することができる。【知・技】 	A 他者
三 7	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が製作したい小物のイメージ図を描く。 ○イメージ図をもとに、試しに小物作りを行い、完成に向けた「製作計画書」を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見本作品を提示し、製作への意欲や見通しをもつことができるようにする。 ・「どのような小物にしたいか」や「実際に自分が作った小物を生活で使用する場面」を考えることで、作りたい小物をイメージできるようにする。 ・作りたい小物をイメージ図に表し、試し活動をする時間を設定することで、解決すべき課題を見いだすことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画を立てることができる。【知・技】 ◆自分が作りたい小物の製作計画や製作について問いや学びたいことから課題を設定し、様々な解決方法を考えようとしている。【思・判・表】 	A B C D 他者
三 8 本時 9	<ul style="list-style-type: none"> ○「製作計画書」を用いて、自分が作りたい小物に近付けるにはどうしたらよいかを考え、課題を設定する。 ○製作を通して課題解決を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「製作計画書」を用いることで、イメージ図と現状のずれを可視化し、児童一人一人の課題とその解決方法を考えることができるようにする。 ・様々な解決方法を試す中で、試し活動を踏まえて立てた課題は変わっても良いことを伝える。 ・新しい課題が見つかった際には、友達と解決方法を考えたり、全体で交流したりして解決が目指せるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分が作りたい小物の製作計画に沿って、解決方法を試し、取り組んだ結果を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決している。【思・判・表】 	A B C D 他者
四 10	<ul style="list-style-type: none"> ○製作した小物を交流し、課題について調べたことや分かったことを共有する。 ○学習全体を通しての振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習の足跡」を用いて題材を通しての振り返りを行うことで、課題を解決する上で身に付いた知識や技能、生活の変容などを感じ取ることができるようにする。また、学習したことを家庭の生活にどのように生かすかを考えることで、生活をよりよくしていこうとする思いを育むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするため小物製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。【主】 	A D 他者

5 本時の指導（8/10）

(1) 指導目標

自分が作りたい小物の製作について問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて、取り組むことができるようにする。

(2) 評価規準

イ 生活を豊かにするための小物の製作計画や製作について、問題を見だし、自分の解決すべき課題を設定し、解決方法を考えようとしている。

【思考・判断・表現】

(3) 展開（波線部は「回遊する学び」に関わる手立て）

学習活動と児童の反応（□）	教師の働きかけと形成的評価（◆）
<p>1 前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。（5分）</p> <p>・早く続きを作りたい。</p> <p>・ボタンをつけて見た目も良くしてみようかな。</p>	<p>1 前時に立てた課題や活動を振り返ることで、本時の学習の見通しをもつことができるようにするとともに、課題を意識して学習に取り組むことができるようにする。</p>
<p>生活を豊かにする小物を作るために、自分の課題を設定し、解決方法を考えよう。</p>	
<p>2 自分が作りたい小物にするために、課題を設定する。（5分）</p> <p>・どこを工夫したら、もっと丈夫で長持ちするような小物になるのかな。</p> <p>・家族が喜んでくれるにはどうしたらいいかな。</p> <p>・見た目をよくするにはどうしたらいいかな。</p> <p>・縫い方を変えるとちがいはあるのかな。</p> <p>・布を決めたけど、ほんとにティッシュが入る大きさの布はこれでいいかな。</p> <p>・どの縫い方がいいのだろう。</p>	<p>2-(1) 「製作計画書」を用いて、自分の作りたい小物のイメージ図と自分の現状（できていないことや工夫したいこと）を可視化することで、解決すべき課題が明確になるようにする。</p> <p>2-(2) 一人一人の課題を設定する際には、「前時にうまくいかなかった点や難しかった点、さらに工夫したい点」を問うことで、課題を設定することができるようにする。</p>
<p>3 課題解決方法を考える。（10分）</p> <p>・丈夫にするには、縫い方を工夫するといよいよ。</p> <p>・生地や縫い方を工夫すると丈夫になりそう。</p> <p>・家族の好きな色や名前を入れると喜んでたくさん使ってくれそう。</p> <p>・ボタンをつけてアレンジすると見た目も可愛く仕上がったよ。</p>	<p>3-(1) <u>それぞれの課題を共有できるようにしておくことで、友達<u>の工夫を参考にしたり、似た課題をもつ児童同士で協働したりしながら解決に向けて取り組めるようにする。</u>（他者）</u></p> <p>3-(2) <u>課題解決の方法を考える際には、実際に体験したり、友達に聞いたりするとよいことを伝え、解決を目指すことができるようにする。</u>（他者）</p> <p>◆ 自分が作りたい小物について問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて様々な解決方法を考えている。（ワークシート、デバイス、発言）</p> <p>【思・判・表】</p> <p>B 自分が作りたい小物について課題を設定し、解決方法を考えることができる。</p> <p>C→ 自分が作りたい小物と現状を確認し、自分に足りないものは何かを問うことで、課題とその解決方法を設定することができるようにする。</p>
<p>「製作計画書」の例</p>	
<p>4 考えた解決方法に取り組む。（20分）</p> <p>・薄い生地よりも厚い生地にすると丈夫だったよ。</p> <p>・1本どりよりも2本どりの方が糸が抜けにくくておすすめだよ。壊れにくそうだよ。</p> <p>・ティッシュケースの端はかがり縫いがよかったよ。</p> <p>・実際にティッシュを包んでみて、大きさを確かめるとよかったよ。</p>	<p>4-(1) これまでに学習した縫い方の特徴を掲示しておき、自分が作りたい小物の縫う部分や目的に応じた適切な縫い方を選択できるようにする。（A）</p> <p>4-(2) 課題解決に取り組む際には、左図の「製作計画書」に工夫を記入していくように促すことで、解決の参考にしたり、対話の手がかりにしたりできるようにする。（他者）</p> <p>4-(3) <u>似たような課題をもつ児童同士でグルーピングをし、課題解決が図れるようにする。</u>（他者）</p> <p>4-(4) 自分の課題を解決するために、試行錯誤しながら工夫している姿を価値付けるようにする。</p> <p>4-(5) 課題を解決する過程で気付いたことや新たに工夫する点を「製作計画書」に残すよう促す。</p>
<p>5 本時で学習したことを振り返り、次時の学習の見通しを持つ。（5分）</p> <p>・解決方法が見つけられたよ。</p> <p>・次の時間は、名前を縫い付けてみたい。</p>	<p>5-(1) 「製作計画書」を用いて、本時の学習を通して学んだことを整理できるようにする。</p> <p>5-(2) 次時までの学習で取り組みたいことを確認することで、次時の見通しをもてるようにする。</p>